皆様の課題をICTで解決する
DAiKO
http://www.daikodenshi.jp
FUJITSU パートナー
大興電子通信株式会社

CHIBA UNIVERSITY PRESS
聖徳大学
ユニバーシティプレス
大学生記者が編集

親子見守る松戸市

松戸市は、日経DUALが2016年に発表した『共働き子育てしやすい街ランキング』全国5位（東京都を除く全国編）となった。今年3月9日には、「働きながら、産み育てやすい社会づくり」を促進する一般財団法人ベビー&バースフレンドリー財団が主催する『第1回ベビー&バースフレンドリーアワード』で、ベビー&バースフレンドリータウン賞も受賞。独自の子育て支援など同市の取り組みを取材した。

小規模保育施設

卒園後も預け先確保

待機児童ゼロ達成

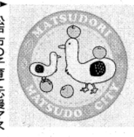
松戸市は、子育て支援制度が充実している。市が特に力を入れているのは、小規模保育だ。今、待機児童数の増加が社会問題となっている中で、松戸市は昨年、待機児童数（国基準）ゼロを達成した。その要因となっているのが、小規模保育施設だ。小規模保育施設は、働く親が送迎しやすいように、駅近くのマンションの空き部屋等と駅ナカを利用して、0～2歳の児童を預かる施設。現在は、45カ所の施設が整備されている。また市は、小規模保育施設に連携施設（認可保育所等）を確保しているため、3歳になり小規模保育施設を卒園しても安心だ。

これと並行して市は、3歳からの児童を対象とする独自の預かり保育にも力を注いでいる。幼稚園が児童を預かれる時間は、およそ9時～14時まで。働く保護者にとってその時間帯の送迎は困難な場合が多い。そこで市は、幼稚園で9時～14時の前後で預かれる時間を延長する預かり保育を推進した。預かり保育の保育料も市から手厚く助成されるため、働く親でも保育所に預けるのと同程度の金額で幼稚園に預けることができる。

市が子育て支援を行う上で重要視しているのは、一人ひとりに合わせてきめ細かく支援できる環境作りだ。市内にある保健センター（中央、小金、常盤平）とそこに併設された親子すこやかセンターでは、妊娠・出産から子育て期まで切れ目ない支援を行っている。親子すこやかセンターには、保健師・助産師・社会福祉士が常駐しているため、さまざまな不安や悩み、疑問について対応する。誰に相談したらいいのか分からない悩みでも、その内容にあった専門家を紹介してもらえるため、安心だ。

その他の子育て支援制度については、松戸市子育て情報サイト「まつどDE子育て」に詳しく掲載されている。松戸で子育てをしている、子育てを考えている人は、一度確認してみてはいかがだろうか。

（小山詩乃）



松戸市の子育て応援マスコット「まつドリ」のスタンプカラー

孤立化防ぐきっかけへ

松戸市は、子育て支援を推進している。親子ともに成長できるイベントを多く行っている。

大きなイベントでは、こども祭りや松戸花火大会、松戸まつりがある。こども祭りは約30種類のコーナーが催される。松戸花火大会は、約1万発が打ち上げられ迫力満点だ。松戸まつりは、松戸駅を中心に音楽パレードやダンス、さまざまな出店で盛り上がる。

小さなイベントは、親子DE広場や子育て支援センター等で催される。近所に遊びに行く感覚で参加できるのが魅力だ。

おやこDE広場の一つ、「おやこDE広場にこにこキッズ」は、松戸市の委託を受け、聖徳大学児童学研究所が運営している。児童学部の学生が授業の一環で親子向けの遊びの企画や、スタッフの手伝いをしている。

市内には、0歳から3歳までの乳幼児と保護者が一緒に利用できる公共施設が20カ所ある。公共施設主催の講座やイベントは、定期的に開催されている。ほかにも松戸市主催の講座やイベントがある。子供の年代別、父親向け、母親向け、シングルマザー向けとさまざまな講座やイベントを開催している。

その目的は、人とのつながりだ。人とのつながりを持つことで、子育てで悩み孤立化している親子を減らすきっかけにもなる。

市子ども部子ども政策課主任主事の東海林理江さんは「松戸市は地域の中で人と人がゆるやかにつながっているのが魅力の一つ。イベントをきっかけに知り合い、ママ友になるケースも多い。また親子の遊び場には、子育てコーディネーターが常駐しているので、イベントをきっかけにちょっとした悩みや疑問なども気兼ねなく相談できる」と話した。

インタビューを受ける松戸市子ども政策課の東海林理江さん

人との輪をつなぐイベント開催

市は親子イベント以外でも、市議会議場にて一流のコーラスや楽器演奏を市民が気楽に楽しんで聴くことができるシティミニコンサートを行っている。コンサートは、市にゆかりのあるプロの演奏家が出演している。松戸駅周辺では、若い女性を中心としたコスプレイヤーが交流するイベントも開催している。

イベントの情報は、松戸市公式ホームページやラジオ番組、SNSで発信している。

松戸市公式ホームページ（www.city.matsudo.chiba.jp）

（花井直子）

札が取れてうれしそうな野菊野こども園の園児

かるたでわかる〝食育〟

市と聖徳大が協働制作

松戸市役所と聖徳大学が協働で作った『食育かるた』がある。幅広い年齢層が楽しみながら食育について学べるものを制作したいという思いから、かるたという形として出来上がった。

同市野菊野にある「野菊野こども園」で、かるたを行った時の園児の様子を3人の先生方に聞いた。皆藤久美子園長は「〈松戸〉という自分の住んでいる市の名前が入っている事で、かるたをやりながら興味が湧き、食育や地元のことを知る良いきっかけになると思います」と話した。実際にかるたを行った年長児のクラスの担任の先生は「子どもたちはまず絵がかわいいと言って興味を持ってくれました」と話し、樋口典子園長代行は「まだかるたができない子どもたちには絵札を見せながら、食育や市の事を勉強する時間を作るのもいいと思いました」とさらなる活用法を見いだしていた。

食育かるたと市から贈られた感謝状を持つ祓川先生（前列中央）とゼミの学生達

大学から制作に関わったのは、児童学科の祓川ゼミ（食育）と大成ゼミ（美術）。読み句を担当した祓川ゼミの祓川先生と学生たちに話を聞く事ができた。

食育を伝えると同時に市の魅力も伝わってくるこのかるただが、学生の大半は同市出身ではないため、かるたで伝えたい魅力について調査した。特産物や市場の仕組みについて学ぶため、同市にある畑での農業体験や南部市場へも行き、学生の松戸の魅力にも触れてきたそうだ。読み句を作るにあたり、市内在住、在勤者に読み句を応募し、集まった237人の882作品の中から34句を学生が選び、足りない音の句を考えた。その際、食育について伝わりやすいような読み句にすること、絵札担当の大成ゼミの学生がイラスト化しやすいものに着目して作ったという。

このかるたは市内の保育園や幼稚園、市立小学校に配布されている。今後、市役所としては高齢者施設等への配布も検討したいとのことであった。また、市役所の行政資料センターで680円で購入もできるほか、松戸市公式ホームページからのダウンロードも可能となっている。6月10日の『食育まつり』は子どもや保護者を対象に、かるたを実際に体験できるコーナーを開催した。

（泉優香）